

千年に一度といわれる東日本大震災を経験し、震災を経験した神戸の皆様の支えは本当に励みになりました！いつ、誰が、どこで災害に遭うか、わからない時代になり、1人1人が防災に意識が向くように発信したいです。

気仙沼市 小野寺由美子

勤務する学校で被災地と交流する時に、現地のことを知るために参加し始めました。それから7年、被災の現実と支援の在り方を学ばせてもらい、たくさんの人と繋がることができました。私は福島のカミヤマの被災地とつながり、活動をしています。11年経っても「被災」は終わったととらえず、今できることを続けていくためにも、支援集会が続いていることの意味は大きいと思います。

木村英生

東日本大地震後5月にボランティアバスで初めて南三陸町へ行かせていただきその後気仙沼へも。「神戸復興塾3.11支援集会」に参加させて頂いてからはコロナ禍で実際に足を運べない被災地の皆さんの様子をzoomで知ることもでき有難いです。今は具体的な支援活動ができていませんが自分ができる事を探して行きたいと思っています。

木場

災害は一人ひとりの人権が危機にさらされることです。だから、復興は一人ひとりの人権を取り戻すことであり、復興まちづくりは誰もが幸福を追求できる地域を取り戻すことです。そんな社会が当たり前になるようにみんなで取り組むことが復興支援。3.11支援集会は、そうした活動をみんなで語り合うヒューマニズムにあふれた場です。

弁護士 津久井進

神戸復興塾 3.11 支援集会

参加者の声

神戸復興塾3.11支援集会は東日本大震災はじめとする全国の被災地の現状を知る情報交換の場としてだけでなく、人とつながり、次に何ができるかを一緒に考える場です。支援集会があるからこそここまで続けてきています。大切な場を一緒に作ってくれた数多くの方々に感謝いたします。このような被災地の外から被災地を応援する取り組みが全国各地で生まれ、つながり続けることを願っています。

山地久美子

2011年3月20日にボランティアプラザの先遣隊から帰神して311支援集会がスタートしました。それ以来、6年間は、ほぼ毎月気仙沼に通いました。阪神・淡路でやれなかったことや教訓を東日本、熊本などでどう活かすのか、支援集会の場で報告しながら、参加者の皆さんと話し合うのが、とても貴重な時間だったと思います。専門家の支援は、代わりに考え、答えを出してあげるのではなく、被災者と一緒に考えることだという教訓も得ることができました。

野崎隆一

2021年12月、「全国被災地語り部国際シンポジウム in 神戸」に参加させていただき、気仙沼支援継続のお話をさせていただきました。他の方のお話を聞き「語り継ぐ」の想いと大切さを感じました。「神戸復興塾3.11支援集会」情報共有の場。コロナ禍で行けてない現地気仙沼、南三陸、福島などの様子を、写真とお話で身近に触れることができ楽しみにしております。来年こそ、気仙沼に行きたいと思っています。(大谷児童館絵本支援は、11年継続しています。)

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

横野美智代

3.11支援集会に参加し、被災地域の町づくりの流れ、法律整備、災害の伝承、現状等について当事者、支援者の皆様から話を伺っています。周辺知識を知ること、当事者の方の背景を想像できる幅が広がりました。支援の形は相手、タイミングにより流動的であるため、支援者集会のように様々な事を行っている人が集まり、話し合い、模索し続けていく事が大切だと思います。

栗原加寿子

阪神淡路大震災から27年、東日本大震災から11年が経過しましたが、この国では毎年のように大きな自然災害が発生しています。3.11支援集会は災害の専門家や学生、そしてボランティアが集まって意見交換ができる貴重な機会です。これからはできる限り参加し、次に来る自然災害に備えて、自分にできることと、やらなければならないことを探していきたいと思っています。

カダンミツ 清本章義

1・17で被災し「地震」の怖さは承知ですが、3・11での「津波」「原発事故」に衝撃を受け、東北に目を向けるようになりました。支援集会では、様々な視点、問題の深掘りなどを学んでいます。たとえ解決に至らないとしても考え続けること、対話しつづけることが大切だと感じていますし、参加だけでもサポートの第一歩だと信じています。そして美しさ、おいしさいっぱい東北を知ることできています。

佐々木美穂

神戸から参加しています。3.11から東北とのつながりが出来、御縁できた友人が参加していたのが支援集会参加のきっかけです。支援集会に参加すると、被災地の今を知ることが出来るのがありがたいなと思っています。

有吉真紀

阪神淡路大震災で魚崎小学校避難所の代表した経験から災害が起こると現地へ行き活動してきました。熊本地震後3年間、現地で活動したあとは、いろいろありましたが、今は、子どもからお年寄りまでの居場所づくりの活動「東灘子どもカフェ」に参加しています。地域コミュニティが低下しているので新たなコミュニティづくりに関わっていきたいと思っています。まだまだ頑張らなければと思っています。**高砂春美**

3.11 支援集会 神戸復興塾、地域復興に向けてハード、ソフトとそれなりの高い知識と経験のある方々による被災者支援は、行政、地域、個人まで幅広く多くの被災者が救われたと思います、そして今後の震災に対して大きな力だと思います。でも私の心の中に小さな凹みがあります。それは震災後ではなく震災そのものから助かる命は多くあつたはず、避難訓練、ハザードマップ、語り部どれも重要ですが！それが役に立たなかった時、大きな震災では想定外だったとされます。でもちょっとした意識の違いでも助かる命はあると思います。何か良い伝え方があれば良いのですが残念ながら私にはありません。そう私の言いたいことは想定外なのでから **畠山**

3.11 支援集会では、まちづくりの専門家から現地の復興に向かう様子を現在進行形で報告してもらったり、阪神淡路大震災の時の貴重なお話などが聴けたり、関連する法令について教えてもらったり、視野が広がりました。**今泉修**

保育園で防災の担当をしています。どう子どもたちの命、職員の命を守るのか。やってもやっても課題点や見直し点が見つかるし、その時その時の判断も大切で、責任の重大さも感じています。子どもたちには、命の大切もあなたたち一人一人が大切だということも伝え続けていきたいと思っています。**よしみ**

神戸復興塾 3.11 支援集会 参加者の声

「はじめまして」でも、東北のことを話し始めると、ずいぶん前から友達だったかのように、あるときは笑顔で、またあるときは真剣に。そんな神戸復興塾が大好きです。タイムリーな情報もGETできて、行きたいところも増えました。神戸にいても、できることは、あるはず。これからも、つながりを大切にしながら、参加したいです。**松下加代子**

友達に誘われて参加しました。色々な専門家の方や被災した地域を大切に思っている方々のお話を聞いたこと、また、実際に現地の方々のお話を聞いた大変貴重な経験でした。**大橋**

10年の節目の集会に初めて参加させていただきました。これからも続けていくことを参加の皆さんに問い、継続が決まった瞬間を拝見し、支援の理想だと感動しました。宮城県で防災、復興を伝えるものとしてありがたく、学ばせていただいております。参加者の皆様にも感謝です。これからもどうぞよろしく願いいたします。**オンライン防災 黒田典子**

3.11 支援集会に参加するようになって何年になるかな。私は東北現地へ行けてなく今に至るのですが、まるでいって皆さんに会ったようなそんな気持ちで自分に出来る支援をしてきました。そんな気持ちになれたのはこの集会に参加できたからだと思います。自分に出来る事しか出来ませんが発表される皆さんの話を聞く事で知らない事より知っている事でいろんな事を理解し心から被災された方達にエールを送る事が出来ました。これは感謝の気持ち以外に言葉がありません。これからもよろしく願いします。**松浦三津子**

石巻、南三陸、気仙沼を毎月訪れていた時に神戸復興塾3.11 支援集会で報告したり話を聞かせてもらいました。原発事故で神戸に避難してきた方々のサポートをしていた「みちのく談話室」の活動を聞いて避難してきた人の状況を聞いていました。母子避難が多くいて、残ったパパの気持ち、すれ違う心、帰還される方もいて、いろんな状況を教えてもらいました。知る事ができる大切な場です。**久一 千春**

阪神淡路大震災の経験より、当時の恩返しの気持ちもあり3.11以降、私なりの関わり方で携わってきましたが、今後は今まで以上に日常や社会においての根源的側面より教育でなく学問、想像からの創造の世界が広がる事を願い動いていきたいと思っています。原発含め様々なシステムにおいて人間が自分で制御出来ない物を作らない様に。**岩谷 和代**